THE DAILY ENGINEERING & CONSTRUCTION NEWS
日刊 建設工業新聞
平成29年6月28日（水曜日）

足立氏「大型補正予算を」

佐藤氏「安ければ良いは絶対駄目」

自民党の佐藤信秋、足立敏之両参院議員と脇雅史前参院議員が26日、東京都内で開かれた業界団体の懇親会にそろって出席し、建設産業の現状や課題に対するそれぞれの問題意識を語った。佐藤氏は、一部自治体が取り組む入札制度改革を挙げて「安ければ良いは絶対駄目だ」と強調。足立氏は、地域建設業の先行き不安を考慮し、「大型補正予算を打つ必要がある」と訴えた。

佐藤氏は、入札制度がダンピングを助長するような事態に陥ることを懸念。「そうなれば一番困るのは現場で働く人たちだ」と訴え、政府を挙げた働き方改革を通じて「給料が上がり、休みが取れるようになることが重要だ」と強調した。

脇氏も働き方改革に言及。国家公務員に完全週休2日制が導入された月の超過勤務手当の時間単価が上がったことを紹介しながら、「実質的に賃金を上げなければ休みは増えない」と指摘。「日給制で現場で働く人たちは休みを与えて喜ぶわけがない。現場がもうかり、なおかつ会社も良くなるような方向性で改革を進めるべきだ」と訴えた。

公共事業予算に触れた足立氏は、「16年度は当初6兆円と補正1・6兆円で7・6兆円の予算が確保された。当初予算が横ばいとなった17年度は、瞬間風速的に6兆円に減額されている状況だ。大型補正を組んだアベノミクス初年度の効果で地域建設業の景況感がプラスに転じたが、その後は落ち込んだ。先行きを考えれば、本年度も大型補正は不可欠だろう」とし、地方業界の声を国政に届けながら、公共事業予算の確保に一段と力を入れていく考えを示した。